

September 2, 2019

【前日の為替概況】ユーロドル、2年3カ月ぶり安値 月末フローきっかけに全面安

30日のニューヨーク外国為替市場でユーロドルは5日続落。終値は1.0982ドルと前営業日NY終値(1.1057ドル)と比べて0.0075ドル程度のユーロ安水準だった。ユーロ圏景気の減速懸念などを背景に欧州中央銀行(ECB)が緩和策を強化するとの見方が強まる中、月末のロンドン16時(日本時間24時)のフィキシングに絡んだユーロ売りのフローが観測されたことをきっかけにユーロ全面安の展開となった。バリアオプションが観測されていた1.1000ドルを下抜けてストップロスを断続的に巻き込むと、一時1.0963ドルと2017年5月以来約2年3カ月ぶりの安値を更新した。

なお、トランプ米大統領はツイッターで「ユーロがドルに対して狂ったように下落しているが、FRBは何も対応していない」と述べ、FRBを再批判したが反応は限定的だった。

ドル円は3営業日ぶりに反落。終値は106.28円と前営業日NY終値(106.52円)と比べて24銭程度のドル安水準だった。ただ、NY市場に限れば106円台前半でのみ合いの展開に終始した。米長期金利が上昇幅を縮めたことなどをながめ円買い・ドル売りが先行。8月米消費者態度指数確報値が89.8と予想の92.1を下回ったことも相場の重しとなり、一時106.11円と日通し安値を付けた。

ただ、対ユーロ中心にドル買いが強まると円に対してもドル高が進行。2時30分過ぎには106.43円付近まで値を戻した。もっとも、引けにかけては106.20円付近まで押し戻されている。なお、主要通貨に対するドルの値動きを示すドルインデックスは一時99.02と2017年5月15日以来の高値を付けた。

ユーロ円も3日ぶり反落。終値は116.83円と前営業日NY終値(117.78円)と比べて95銭程度のユーロ安水準。月末のロンドン・フィキシングに絡んだユーロ売りのフローが出たことで一時116.63円と日通し安値を付けた。

米ドルカナダドルは一転上昇した。4-6月期および6月カナダ国内総生産(GDP)が予想より強い内容となったことを受けて米ドル売り・カナダドル買いが先行。21時30分過ぎに一時1.3248カナダドルと日通し安値を付けた。ただ、ユーロドルの下落をきっかけに全般米ドル高が進むと、カナダドルに対しても米ドル買いが優勢に。WTI原油先物価格が下落したことも産油国通貨とされるカナダドルの売りを誘い、3時30分過ぎに一時1.3333カナダドルと日通し高値を付けた。

【本日の東京為替見通し】ドル円 上値重いものの材料不足、欧州通貨の動きには警戒

本日の東京市場のドル円は、上値が重いものの米中通商協議の進展をうかがう動きは変わらず、大きな値動きは難しいか。昨日9月1日より米国による対中関税第4弾が発動された。また、中国からもそれに対する報復関税が発動され、両国による関税合戦が避けられなかったことで、早朝のオセアニア市場ではドル円は106円を割り込んだ。しかし、先週トランプ米大統領も中国との協議を「これまでと異なるレベルで再開する」と表明したこともあり、一方的に通商協議が悪化の一途をたどるのかは分からないだろう。その点を考慮すると、ドル円で一方的にドル売りが進むのも難しく、105円後半や106円前半を中心に方向感のない値動きに終始する可能性が高い。

ドル円相場を動かす要因としては、トランプ米大統領をはじめとした要人発言のヘッドラインになる。しかし、市場は米大統領の揺れ動く発言に反応しても、すぐに否定発言もされることもあり、ここ最近は大きく動くのは難しくなっている。突っ込んで売り込む・買い込むと、その後に踏み倒される可能性もあり、ヘッドラインの内容をよく吟味する必要があるようだ。

ドル円以外では、欧州通貨の動きには警戒したい。1日に実施された独ブランデンブルク州とザクセン州の議会選挙の出口調査が発表され、現時点ではメルケル首相率いるキリスト教民主同盟(CDU)と連立を組むドイツ社会民主党(SPD)が極右のポピュリスト政党(AFD)をリードしている。このまま与党がリードを保てば、市場の動きは限られるだろうが、AFDの得票が伸びた場合は、欧州が一層混迷を深めることもあり、ネガティブ・サプライズには警戒したい。

また、英国議会が明日3日から再開されるが、10日には議会が停会することもあり、この後の英議会を取り巻く動きにより、ポンドが大きく動く可能性が高い。

なお、本日は米国とカナダがレーバーデーで休場になるため、欧州引け後は市場流動性が大きく低下することには気をつけたい。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

○08:50 ◇ 4-6 月期の法人企業統計調査（法人季報、ソフトウェアを含む設備投資額、予想：前年比 1.7%）

<海外>

○10:45 ◎ 8 月 Caixin 中国製造業購買担当者景気指数（PMI、予想：49.8）

○15:30 ◇ 7 月スイス小売売上高

○16:00 ◇ 8 月トルコ製造業 PMI

○16:00 ◎ 4-6 月期トルコ国内総生産（GDP、予想：前年比▲2.0%）

○16:30 ◇ 8 月スイス SVME 購買部協会景気指数（予想：45.4）

○16:50 ◎ 8 月仏製造業 PMI 改定値（予想：51.0）

○16:55 ◎ 8 月独製造業 PMI 改定値（予想：43.6）

○17:00 ◎ 8 月ユーロ圏製造業 PMI 改定値（予想：47.0）

○17:30 ◎ 8 月英製造業 PMI（予想：48.4）

○3 日 03:00 ◎ 8 月ブラジル貿易収支（予想：33 億ドルの黒字）

○米国、カナダ（レーバーデー）、休場

3 日

<国内>

○08:50 ◇ 8 月マネタリーベース

<海外>

○08:01 ◇ 8 月英小売連合（BRC）小売売上高調査

○10:30 ◇ 4-6 月期豪經常収支

○10:30 ◇ 7 月豪小売売上高

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

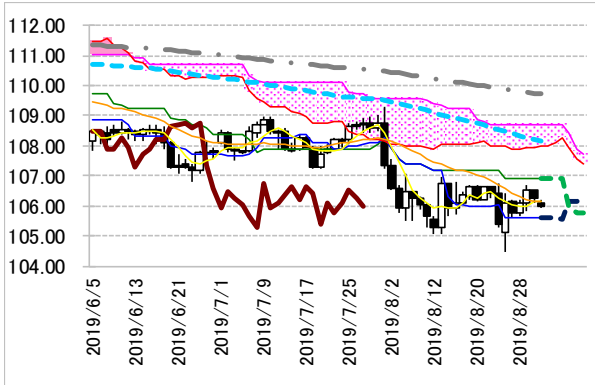
30 日 15:31 ラウテンシュレーガー-ECB 専務理事
「大規模な刺激策を講じるには時期尚早」
「QE などの非標準的な刺激策を検討する前に、利下げを検討すべき」
「QE は最終手段であると確信」
「デフレのリスクがある時のみ、QE は使用される」

30 日 16:29 中国外務省
「米中の通商交渉チームは効果的なコミュニケーションを維持している」

31 日 00:41 トランプ米大統領(ツイッターで)
「ユーロがドルに対して狂ったように下落しているが、FRB は何も対応していない」

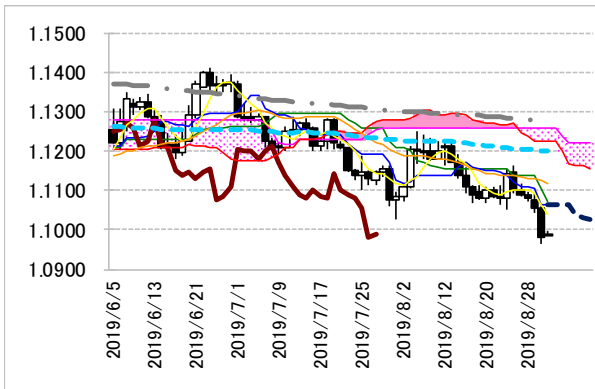
※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕



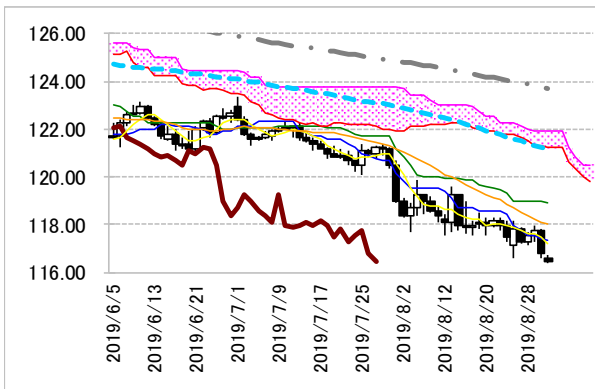
<ドル円＝転換線・基準線レンジ中ほどで次の方向うかがう>
下影陰線引け。一目均衡表・転換線と基準線に挟まれたレンジ中ほどで、次に向かう方向をうかがう状態となっている。106.14円前後で低下中の21日移動平均線付近でやや重い動きとなっており、不安定に振れる懸念はあるものの、まずは転換線と基準線の交差が見込まれる106円付近へ収れんするようにもみ合い、そのなかで上下どちらへ振れるかを探ることになる。

レジスタンス2 106.89(日足一目均衡表・基準線)
レジスタンス1 106.68(8/29 高値)
前日終値 106.28
サポート1 105.60(日足一目均衡表・転換線)



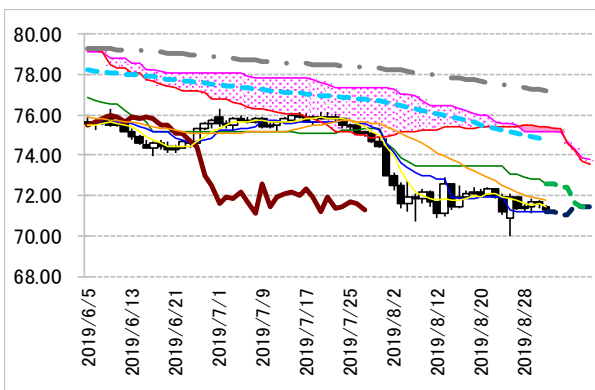
<ユーロドル＝低下中の転換線が反発抑制>
下影陰線引け。低下中の一目均衡表・転換線付近で上値が重かったが、さらに相場の弱体化が進み、転換線からも下放れた。一時1.0963ドルと2017年5月以来、約2年3カ月ぶりの安値まで下振れた。一気に売りが進んだ反動による調整の戻りも想定できる。しかし、転換線が低下終了はまだ見通せず、反発は同線付近で抑制されそう。

レジスタンス1 1.1064(日足一目均衡表・転換線)
前日終値 1.0982
サポート1 1.0906(2017/3/27 高値)



<ユーロ円＝5日線の低下ともない下値探る展開継続>
下影陰線引け。低下の流れを緩めつつあった一目均衡表・転換線を下抜け、週明けは116.41円まで2017年4月以来の安値を更新した。目先のすう勢を示す5日移動平均線は117.18円前後で低下傾向を緩めず推移。同線とともに下値を探る展開が続くそう。転換線や21日移動平均線が戻りを抑えそう。

レジスタンス1 117.37(日足一目均衡表・転換線)
前日終値 116.83
サポート1 116.29(8/19-26 下落幅のN計算値)



<豪ドル円＝転換線付近の攻防>
下影小陰線引け。一目均衡表・転換線71.19円付近の攻防となっている。転換線はもう少し低下する見込みだが、今週中に71円付近で下げ止まる可能性がある。転換線前後の底堅さを確認できれば、まずは同線と基準線の交差が想定される71円半ばへ近づきつつ、戻りを試す流れに乗ることができそう。

レジスタンス1 72.08(8/26 高値)
前日終値 71.59
サポート1 71.02(8/26 上昇幅の半値押し)

